

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

狩野川上流域の天城山系一帯は国有林が広がりスギやヒノキ等の人工林を主体とする常緑針葉樹が大部分を占めているが、天城山系の山頂部一帯や箱根山西麓部等の富士箱根伊豆国立公園内には、樹齢700年を超えるブナやアカガシ、ヒメシャラ、アセビなどが混在した自然植生が残されている。また、山間部にはニホンカモシカやニホンザル、イノシシ等のほ乳類、河川では溪流に生息するハコネサンショウウオ、モリアオガエル等の両生類、アマゴ、タカハヤ等の魚類が生息している。

田方平野を流下する中流域は、全体的に自然植生は少ないものの、社寺林等には常緑広葉樹の自然植生がところどころ点在している。特に函南町の禁伐林はカシ林とブナ林の推移帯に位置しており貴重な原生林を形成している。また、^{じょうやま}城山 付近は静浦山地と川が隣接していることから、ヤマセミやカワセミといった鳥類をはじめとした多くの生物の生息場となっており、県内では狩野川流域でしか見られないコオニヤンマやホンサナエ等の昆虫類の生息も確認されるなど、貴重な自然が残されている。さらに、静浦山地はシイやカシ類の常緑広葉樹林が分布し、特にウバメガシの純林は我が国の北限に当たり、貴重な自然環境が残されている。

黄瀬川からの扇状地が広がる下流域は、沼津市や三島市等の市街地となっており、静浦山地や沿岸域に残された千本松原等の緑地と、富士山や伊豆半島の眺望と市街地が融合した水と緑豊かな都市景観を形成している。

2-2 河川の自然環境

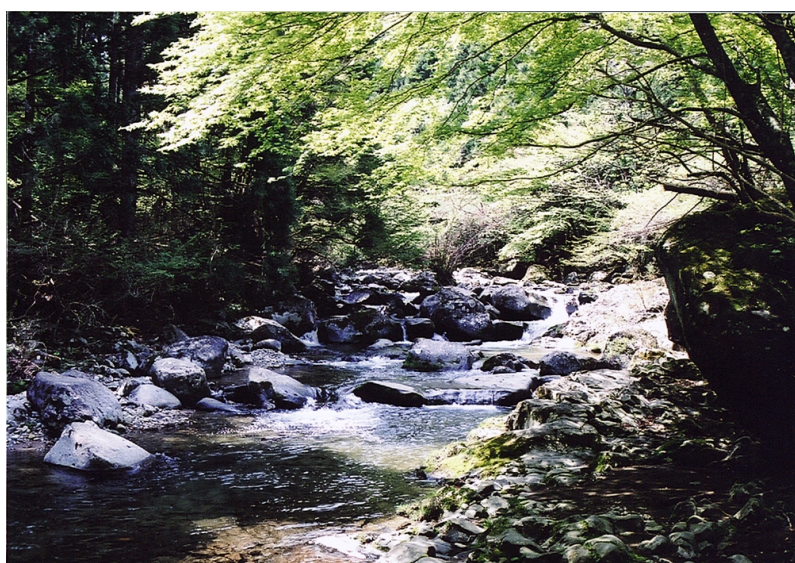
狩野川上流部の天城山系一帯は、急峻な地形に特徴づけられ、^{じょうれん}浄蓮の滝や^{まんじょう}萬城の滝、^{なめきわ}滑沢溪谷等の溪流を形成しながら流下している。田方平野にはいと勾配は緩やかになり、蛇行を繰り返し、瀬や淵を形成しながら、緩やかに流下している。

上流部は、溪流に沿ってカシやカエデ類の自然植生が残されており、ヤマセミ、カワセミ等の鳥類やアマゴ、カジカ、タカハヤなどの清流に生息する魚類が多く、良好な河川環境を呈している。

田方平野を流下する中流部は高水敷が広がり、ヨシ、オギ、ツルヨシ、カワヤナギやメダケ等の植生が広く分布し、オオヨシキリをはじめとした草地に依存する生物が生息している。また、河道には瀬淵や洲が発達し、アユ、ウグイ、オイカワといった魚種が生息している。さらに、狩野川は「アユ友釣り発祥の地」でもあり、狩野川を代表する魚類であるアユの産卵場が狩野川放水路分派点付近を中心に分布している。

下流部は、沼津市等の都市域を流下し、河川空間は公園や広場などに利用され、まちづくりと一体となった河岸整備により、安らぎの水辺空間を提供している。また、ウナギやアユカケなどの回遊魚、ハゼ、ボラなどの汽水・海水魚が生息し、高水敷にはヨシ群落、オギ群落の他にセイバンモロコシ群落も分布している。河口部の干潟は、カモ類の集団分布地であり、ウミネコなどカモメ類も多く見られる。

日本の名水百選・自然百選に選ばれ、富士山、箱根山等を水源とする清冽な湧水から発する支川柿田川は、100万 m³/日と豊富な湧水量を誇り、年間を通して水量、水質、水温ともに安定していることから、密集する市街地にもかかわらず、ミシマバイカモをはじめとする希少な水生植物や、一般的には河川の中上流部に生息するアマゴ、ヤマセミ、カワセミ、ゲンジボタル等が生息している。また、河畔が緑で連続的に覆われ、水と緑を織りなす良好な自然環境を形成しており、都市域の憩いの空間として多くの人々に親しまれている。



滑沢溪谷

柿田川で見られる生物

項目	生物種
植物	ミシマバイカモ ¹⁾ 、ナガエミクリ、ヒンジモ、カワジシャ、オオアカウキクサ等
昆虫類	アオハダトンボ、ダビドサナエ、ハグロトンボ、アサギマダラ、ハコウアゲハ、ゲンジボタル等
魚類	ホトケドジョウ、ウツセミカジカ、アマゴ、アユ、ウキゴリ等
底生動物	ヤマトセンカイトビゲラ、マルツツトビゲラ等
鳥類	ヤマセミ、カワセミ、レンジャク、ヒレンジャク、ホトトギス、カッコウ、カワガラス等

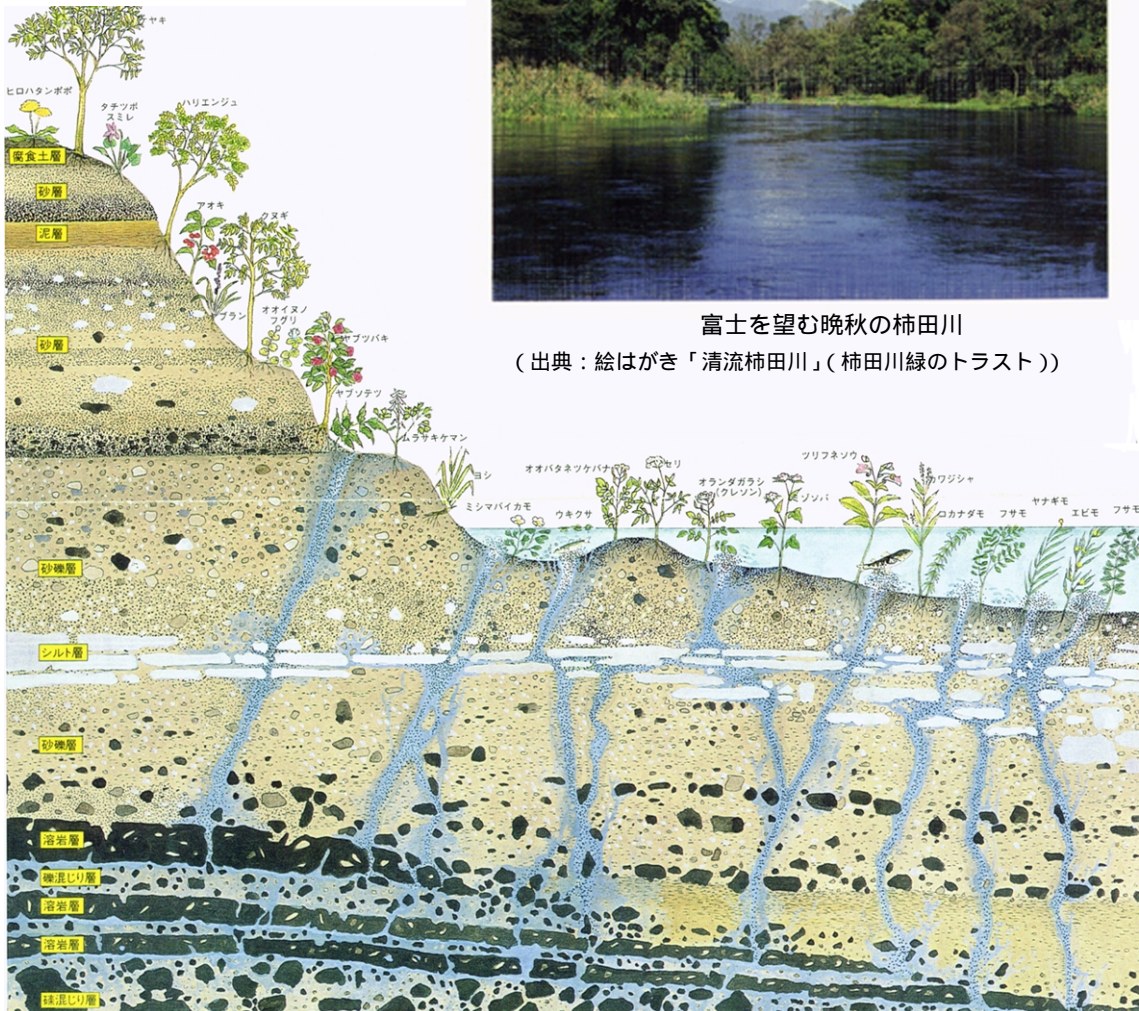
注：下線は「レッドデータブック」、「レッドリスト」記載種であることを示す。

なお、ミシマバイカモは、レッドデータブック絶滅危険種に掲載されていたが、最新のレッドリストからは除外されている。



富士を望む晩秋の柿田川

(出典：絵はがき「清流柿田川」(柿田川緑のトラスト))



(出典：柿田川自然観察マップ(柿田川自然保護の会))

(1) 魚介類

上流部には、山間の清流に棲むアマゴ、カジカ等の渓流魚が多く生息している。中流部は、アユやカジカ、オイカワ、カワムツやコイ、フナ、ウグイ等の純淡水魚が生息しており、アユの産卵場となる瀬が点在している。

下流部では、ボラやハゼ、スズキといった汽水・海水魚が生息しており、コイ、フナ、ウグイ等の純淡水魚や、ウナギ、アユカケ等の回遊魚も生息している。

また、支川の柿田川では、アマゴ等清流に生息する種も確認されている。

河川水辺の国勢調査結果（平成8年度実施）では、狩野川河口～相山橋(43.5k 付近)間及び柿田川、大見川でアユをはじめとする65種、特定種としてアユカケが確認されている。また、レッドリスト記載種として、スジシマドジョウ大型種が確認されている。



アユ



スジシマドジョウ大型種

(2) 底生動物

中流部には、比較的きれいな水に生息するヒゲナガカワトビケラ等のトビケラ類が多く生息している。下流部は泥の中に潜って生活するゴカイや、汚い水に生息するニホンドロソコエビやミズムシが多く見られ、感潮区間ではヤマトシジミといった汽水性の種も生息している。

また、支川の柿田川では、流況の変化が小さく、河床が安定しているため、トビケラ類が多く生息している。

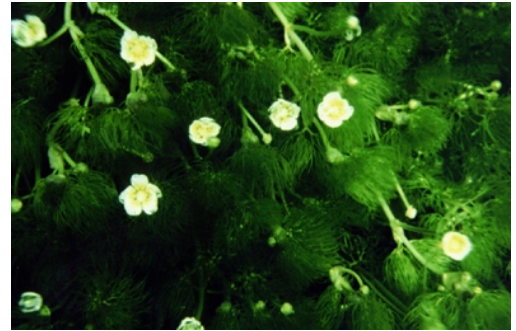
河川水辺の国勢調査（平成8年度実施）では、狩野川河口～修善寺橋(28.0k 付近)間及び柿田川で201種の底生動物が確認されている。



ヒゲナガカワトビケラ

(3) 植物

上流部は、溪流に沿ってカシやカエデ類の自然植生が残されている。中流部では、水際部を中心にヨシ、ツルヨシ、オギ、オオブタクサ群落が見られ、高水敷には、野鳥をはじめとする多様な生物の生息・生育地となっているカワヤナギやメダケ群落等の河畔林がところどころに見られる。下流部では、ヨシ、ツルヨシ群落のほか、セイバンモロコシ群落も出現している。



ミシマバイカモ

また、支川の柿田川は、ハンノキ等により河岸が緑で連続的に覆われており、河道内には清冽な水域でしか生育しないミシマバイカモや、レッドリスト記載種であるアカウキクサ、オオアカウキクサ、ヒンジモ、ナガエミクリが確認されている。

河川水辺の国勢調査（平成7年度実施）では、狩野川河口～修善寺橋間及び柿田川で519種の植物種が確認されている。また、貴重な種としては、狩野川本川ではレッドリスト記載種であるミズマツバ、ウスゲチョウジタデ、ミゾコウジュ、カワジシャ等が確認されている。

(4) 鳥類

上流部は、山間溪谷等に棲むヤマセミやカワセミ等が生息している。中流部は、砂州や中州等の砂礫地に依存するサギ類やシギ類等が生息しており、高水敷のヨシ原には草地に依存するオオヨシキリやホオジロ等が生息している。また、城山付近は山と河川が隣接していることから鳥類の生息場として良好な環境を有しており、カワセミ、ヤマセミやチョウゲンボウ等の猛禽類をはじめ多くの鳥類が生息している。下流部は高水敷のヨシ原にはオオヨシキリ等が生息しているほか、河口部にはカモ類の集団越冬地も確認されている。また、支川の柿田川では、良好な河川環境を反映し、一般的には河川の中上流部に生息するカワセミ、ヤマセミ等が確認されている。



ヤマセミ



カワセミ

河川水辺の国勢調査（平成10年度実施）では、狩野川河口～修善寺橋間及び柿田川で85種の鳥類が確認されており、特定種としてはミサゴ、オオタカ、ハイタカ等26種が確認されている。

(5) 両生類、爬虫類、哺乳類

上流部では、山間溪流に棲むモリアオガエル等の両生類が見られる。

中・下流部では、クサガメやトカゲ、カナヘビ等の爬虫類や、アカネズミ等の哺乳類など、平地性の種が見られる。

河川水辺の国勢調査(平成9年度実施)では、狩野川河口～修善寺橋間及び柿田川で両生類7種、爬虫類7種、哺乳類11種が確認されており、特定種としてモリアオガエルが確認されている。



モリアオガエル

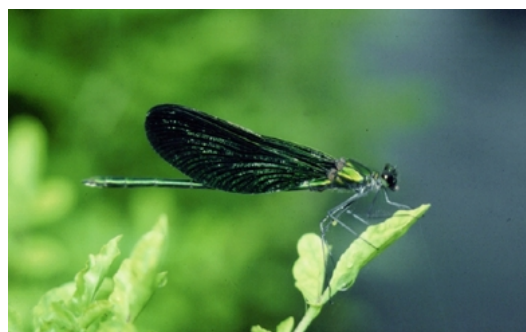
(6) 陸上昆虫類

上流部では、静岡県内の他地域では見られなくなってきているトンボ目のキイロサナエ、ホンサナエといった種が生息している。

中下流部では、草地依存型のヒナバッタやマルカメムシ、ヒメマダラメイガ等の種や、水域依存型のホンサナエ、アカケシガムシ、ホソセスジゲンゴロウ等の種が多く確認されている。

また、支川柿田川では、良好な河川環境を反映し、アオハダトンボやダビドサナエ等の種が確認されている。

河川水辺の国勢調査(平成6年度実施)では、狩野川河口～修善寺橋間及び柿田川で978種の陸上昆虫類が確認されており、特定種としてはアオマツムシが確認されている。



アオハダトンボ

* 特定種とは、調査実施の参考とするために以下の文献に記載のあるものを整理したものです。

魚介類	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(以下「種の保存法」という)の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「魚介類版レッドリスト」掲載種 ・「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」(環境庁)(以下RDB(レッドデータブック)という)掲載種 ・自然環境保全調査(第1回)(以下「第1回緑の国勢調査」という)の「すぐれた自然」調査対象種 ・自然環境保全基礎調査(第2回)(以下「第2回緑の国勢調査」という)の「日本の重要な淡水魚」指定種
底生動物	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・RDB(レッドデータブック)掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査の「日本の重要な昆虫類」指定昆虫
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「植物版レッドリスト」掲載種 ・「我が国における保護上重要な植物種の現状」(我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究会)(植物版レッドデータブック)掲載種 ・自然公園法の指定植物(特別地域)
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「鳥類版レッドリスト」掲載種 ・RDB(レッドデータブック)掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査における稀少種
小動物 (両生類・爬虫類・哺乳類)	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「両生類・爬虫類版レッドリスト」「哺乳類版レッドリスト」掲載種 ・RDB(レッドデータブック)掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査の「日本の重要な両生類・爬虫類」指定種
陸上昆虫	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・RDB(レッドデータブック)掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査の「日本の重要な昆虫類」指定昆虫

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

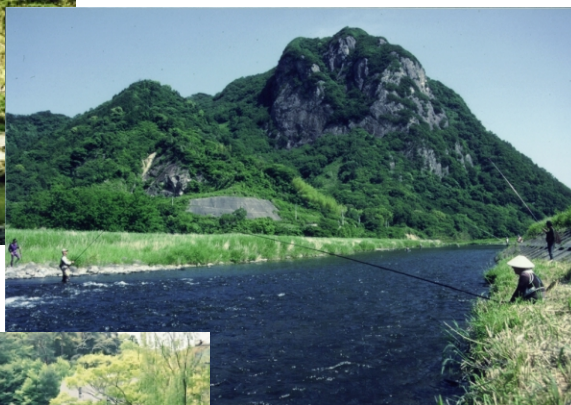
狩野川の上流部は、滑沢渓谷等の渓流景観をはじめとした自然景観に恵まれているとともに、浄蓮の滝や萬城の滝など、随所に点在する滝が変化に富む景観を形成している。また、渓流沿いに天城湯ヶ島温泉、修善寺温泉等の温泉地が点在しており、“いで湯”と“清流”の組み合わせが良好な景観を形成しているとともに、井上靖や川端康成をはじめとする多くの作家がこの地を訪れて、狩野川や流域の描写が描かれた優れた作品を残していることから、彼らの名や作品にちなんだ文学碑などが多く見られる。

中流部は、瀬淵が交互に現れて緩やかに流れる川面と富士山や天城山系などの山々や、田方平野の水田が調和した田園的な狩野川特有の落ち着いた景観を形成している。特に、大仁橋から狩野川上流の天城山系を望む景観は伊豆八景の一つに選定されている。また、歴史の舞台となった源頼朝の流刑地である蛭ヶ小島や、北条氏にまつわる史跡なども残されている。

下流部は、静浦山地や都市区域に残された緑地と富士山や伊豆半島の眺望と市街地が融合した水と緑豊かな都市景観を形成しており、富士山を遠景として都市部をゆったりと流れる狩野川の景観が特徴的となっている。また、沼津市上土地区では、市街地再開発事業と一体となって整備された階段護岸等が、都市域における良好な水辺空間を提供している。



浄蓮の滝



城山



独鈷の湯

< 狩野川流域の文化財、史跡 >

^{かるの}軽野神社（天城湯ヶ島町）

狩野川の最も一般的な名前の由来である軽野（カルヌ）の造船儀礼と深く関わっていた神社。

軽野神社の「軽野」とは、日本書紀に登場する丸太船と同じ構造を持った船のことだったと考えられる。



軽野神社（天城湯ヶ島町）

^{ひるがこしま}蛭ヶ小島（葦山町）

狩野川ゆかりの史実で最も名高いのが、源頼朝の流刑である。源頼朝は平治の乱（1159年）後、葦山の「蛭ヶ小島」に流された。当時の狩野川はこの付近を蛇行して流れ、中州がいくつもできてちょうど島のようになり、蛭ヶ小島、^{わだしま}和田島などと呼ばれていた。



蛭ヶ小島（葦山町）

川神浄（「かわかんじょう」、大仁町神島）

毎年8月1日の夜、竹とわらで造った3メートル四方の船に4メートルの大松明を立て、火を灯し川に流し、狩野川の水神を供養し、土地の安全を祈願する伝統行事である。



川神浄（大仁町神島）

狩野川の鵜飼

狩野川の鵜飼については、室町時代に伊藤新九郎（北条早雲）が葦山の関東公方のために鵜飼いの主催を命じられ、このとき長良川から鵜匠を連れ帰って鵜飼いを見せたという話が伝えられている。また、大仁町水晶山には、大正天皇が皇太子の頃、鵜飼いを見学したことを記念して立てられた「鵜飼天覧御所碑」が立てられている。

なお、現在は、狩野川では鵜飼は行われていない。



鵜飼天覧御所碑

< 狩野川にまつわる伝説 >

河童のくすり

場所：天城湯ヶ島町（狩野川）

今から 400 年ぐらい前の話。

ある河童が、相磯守清という軍医の馬のしっぽを引っ張ったばかりに、相磯守清に腕を斬られてしまった。河童は秘密の傷薬の作り方と引き替えに腕を取り返しに来た。この薬の効き目はすばらしく、「河童のくすり」として世に知られるようになった。（「史話と伝説」より）

女郎蜘蛛の精

場所：天城湯ヶ島町（狩野川）

天城の観光名所である浄蓮の滝にまつわる伝説。

むかし樵夫が、落とした鉈を探しに滝つぼの中に入ると美しい女性と出会う。その女性と、姿を見たことの公言をしない約束をしたが、「滝の主は女郎蜘蛛だ」と村人から聞き、その出来事を話すと樵夫は深い眠りについた。（「史話と伝説」より）

< 狩野川にまつわる文学作品 >

小説「人間の運命」（芹沢光治良著）

場所：沼津市（狩野川）

日本近代の社会構造を踏まえ、作者の生い立ちを原点とした精神形成の歴史を描いた大河小説。狩野川河口域が舞台となっている。

小説「しろばんば」(^{いのうえやすし}井上靖 著)

場所：天城湯ヶ島町（狩野川）

作者が伊豆の自然の懐深く抱かれ、祖母の献身的な愛に育まれた時代の自伝的小説。狩野川上流域が舞台となっている。

小説「夏草冬濤」(^{いのうえやすし}井上靖 著)

場所：沼津市（狩野川）

作者が沼津市内で過ごした中学生時代のできごとを描いた自伝的小説。狩野川下流部の沼津市内が舞台となっている。

小説「伊豆の踊子」(^{かわばたやすなり}川端康成 著)

場所：天城湯ヶ島町（狩野川）

「私」が伊豆を旅する旅芸人の一座に出会い、共に旅する物語である。狩野川上流域が舞台となっている。

ヒロインの「踊子」には、田中絹代、吉永小百合、山口百恵などにより何度も映画化されている。

戯曲「修禅寺物語」(^{おかもときどう}岡本綺堂 著)

場所：修善寺町（狩野川）

狩野川上流域が舞台で、伊豆の国狩野の庄、修善寺村桂川のほとり、面打ち師夜叉王の伝家の物語である。

明治末期より上演され、昭和初期には、パリやモスクワでも上演され、近代劇として成功を収めた。

2-4 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び自然環境保全地域

狩野川流域の流域界周辺の山岳地帯を中心とした区域が、富士山周辺と箱根山、伊豆半島を中心とし、太平洋上の伊豆諸島を含む1都3県にまたがる広大な指定区域をもつ富士箱根伊豆国立公園に指定されている。

また、^{あしたかやま}愛鷹山、^{かんなみ}函南原生林の2ヶ所が自然環境保全地域に指定されている。

(2) 鳥獣保護区

狩野川流域は、富士箱根伊豆国立公園周辺の山岳地域を中心に28ヶ所の鳥獣保護区が指定されており、富士山南麓と愛鷹山の2ヶ所が特別保護地区に指定されている。

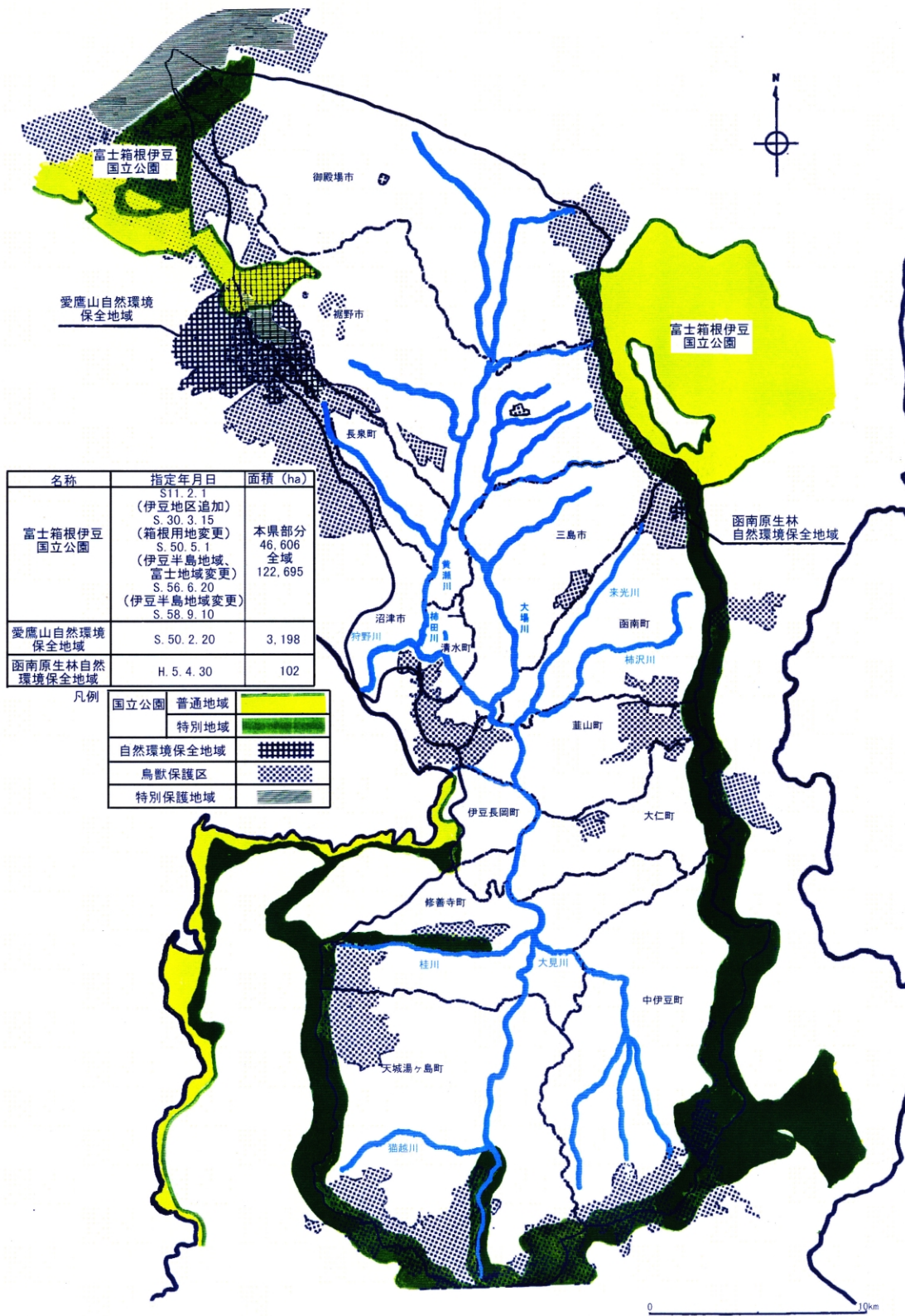


図2.1 狩野川流域の国立公園指定状況